

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Assisted reproductive technologies are slightly associated with maternal lack of affection toward the newborn: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 生殖補助医療と母親の新生児への愛情欠如の関連性

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research

年: 2020 月: 1 巻: 頁:

筆頭著者名: 吉益光一

所属UC名: 宮城UC

目的: 生殖補助医療技術(ART)と母親の新生児に対する愛着障害の関連性を検証すること。

方法: 一際時固定データを用いて、愛着評価尺度日本語版で評価された母親の子どもへの愛着と生殖補助医療との関連性を、年齢、収入、学歴などの人口統計データで補正した多変量解析により、検証した。

結果: 生殖補助医療は、母親の新生児に対する愛着全般には関連が見られなかったが、愛情の低さに有意に関連していた。一方、生殖補助医療以外の不妊治療は、新生児に対する愛情の低さと拒絶的態度の双方に有意に関連していた。母親の愛着の低さと児の発達不全の間には、有意な正の相関が認められた。

考察: (研究の限界を含める)

生殖補助医療は全体的には母親の愛着と有意な関連性が認められなかったが、そのサブスケールである「愛情の欠如」には有意に関連していた。一方生殖補助医療以外の不妊治療は、全体的な母親の低い愛着と関連していた。生殖補助医療を含む不妊治療は、妊娠できたとしても不妊そのものを治療するものではないため、母親の児への愛着に負の影響を及ぼすのかも知れない。生殖補助医療はコストが高いため、その達成感のゆえに妊娠が成功した場合に他の不妊治療に比べて、母親の児への愛着が損なわれる程度は少ないと考えられる。

結論: ARTを含む不妊治療は母親の子どもへの愛着に負の影響を及ぼし、低い母親の愛着は子どもの成長に、程度は小さいが悪影響を及ぼす可能性がある。このため、ARTなど不妊治療を受けた母子の健康状態は長期に亘ってフォローされるべきである。